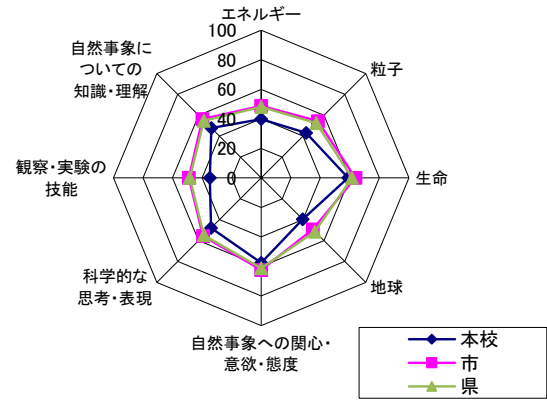


宇都宮市立雀宮中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	39.8	48.8	48.1
	粒子	43.0	54.4	52.6
	生命	58.8	63.7	61.5
	地球	39.7	49.4	51.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	57.5	62.3	61.1
	科学的な思考・表現	47.9	55.7	54.8
	観察・実験の技能	34.8	49.0	48.3
	自然事象についての知識・理解	47.8	56.3	54.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	平均正答率は、市の平均を9.0ポイント下回っている。県の平均を8.3ポイント下回っている。 ○物体の密度を求めて物質を分類する問題では、正答率が県平均とほぼ同じである。 ●メスシリンダーの目盛りを読み取り密度を求める問題では、正答率が30.1ポイントで、技能の定着が十分ではない。	・実験を行うことを重視して、繰り返しメスシリンダーの目盛りを読み取る活動を行い、技能の定着を図る。 ・凸レンズを通った光が進む道筋について、実験後に作図を通して理解できるように指導する。 ・モノコードを用いて物体の振動と音の大きさや高さを体感させ、音の大きさや高さを調整する方法を学ばせる。
粒子	平均正答率は、市の平均を11.4ポイント下回っている。県の平均を9.6ポイント下回っている。 ○溶解度から、水溶液を冷やしたときの様子を考える問題では、正答率が県平均とほぼ同じである。 ●水上置換法で二酸化炭素を集め体積を調べる問題では、正答率が30.1ポイントで、気体の性質を十分に理解できていない。	・気体を実際に発生させる実験を行い、気体の性質を意識させながら実験に取り組ませる。 ・水に溶けている物質を再結晶させる実験を行い、溶媒が少なくなると析出し結晶化することを体験を通して学ばせる。 ・水とエタノールの混合物の蒸留実験では、においや火を近づけたときの様子を体験させ、理解の定着を図る。
生命	平均正答率は、市の平均を4.9ポイント下回っている。県の平均を2.7ポイント下回っている。 ○アイビーの根を推測して作図する問題では、双子葉類の特徴を捉えて作図できている。 ●マツの花粉の空気袋のはたらきを推測して、記述式で説明する問題では、正答率が56.6ポイントで、知識の定着ができていない。	・図を用いて植物の特徴を捉えさせ、理解の定着を図る。 ・観察・実験時に、使用する実験器具を、繰り返し復習するよう指導していく。 ・より確実に基本的な知識を身に付ける工夫を行い、その知識をどのように活用させていくのか具体的に授業で取り上げる場面を増やし、指導していく。
地球	平均正答率は、市の平均を9.7ポイント下回っている。県の平均を11.7ポイント下回っている。 ○地層の特徴から、地層が堆積した当時の海岸からの距離の変化を推測する問題では、正答率が県平均とほぼ同じである。 ●火山岩のでき方を説明する問題では、正答率が53.0ポイントで、知識の定着が十分ではない。	・マグマの冷え方によってできる火成岩のつくりを、モデルや映像資料を用いて理解を図るよう指導する。 ・火成岩や堆積岩の試料を示し、その特徴とでき方を関連させて指導する。 ・示準化石や示相化石の試料を示し、地層ができた当時の環境と関連させて指導する。